

整理番号	11
部名	教育部
課名	文化課

1. 基本情報

事務事業名	O2 郷土博物館管理事業				事業類型	施設運営型					
予 算	会計	10	一般会計	款	10 教育費	項	O4 社会教育費	目	O3 郷土博物館費	予算額	11,369 千円
長期計画	章	4 文化・交流活動がいぎづくまち			施策分野	2 歴史・文化・芸術		基本施策	(1) 文化遺産の魅力を生かしたまちづくりの推進		
関連計画	実施計画	事業番号・事業名									
根拠法令等	博物館法、青梅市郷土博物館条例										

2. 事業の目的

対象（誰を・何を）	郷土博物館入館者
目的（どうい状態にしたいのか）	郷土の歴史や民俗、自然、文化財等について、各分野のテーマについて調査や研究を進め、企画展などを開催し、広く周知する。

3. 事業の指標と単位当たりコスト

						平成31年4月1日現在人口	133,574 人	
成果指標	指標の説明（考え方・算出方法）	単位	区分	29 年度	30 年度 A	元 年度 B	対前年度 B-A	市民1人当たりコスト(b/人口)
郷土博物館入館者数	年間入館者数	人	目標		18,000	18,000	0.0	147.1 円
			実績		17,608	17,416	-142	
			単位コスト		1,215 円	1,120 円	1,138 円	18 円
			目標					145.6 円
			実績					
			単位コスト					

4. 行政コスト計算書

										(単位：千円)			
勘定科目	29 年度決算額	30 年度決算額 A	元 年度決算額 B	対前年度 B-A	勘定科目	29 年度決算額	30 年度決算額 A	元 年度決算額 B	対前年度 B-A				
経常費用	人員費	職員給与費	5,309	4,606	4,619	13	分担金・負担金	0	0	0			
		賞与等引当金繰入額	449	407	409	2	使用料・手数料	0	0	0			
		退職手当引当金繰入額	0	0	747	747	その他	947	1,096	208			
		その他	0	0	0	0	合計 (a)	947	1,096	208			
	業務費等	小計	5,758	5,013	5,775	762	臨時損失 (c)	0	0	0			
		物件費	11,700	10,465	9,671	-794	臨時利益 (d)	0	0	0			
		維持補修費	298	385	388	3	臨時損益 (d-c=e)	0	0	0			
		減価償却費	3,567	3,567	3,737	170	純行政コスト(f)=(b-a)-e	20,447	18,415	19,443			
		その他	0	0	9	9							
		小計	15,565	14,417	13,805	-612							
その他の業務費用	支払利息	0	0	0	0	科目	29 年度決算額	30 年度決算額 A	元 年度決算額 B	対前年度 B-A			
	徴収不能引当金繰入額	0	0	0	0	国庫支出金	0	0	0	0			
	その他	11	21	11	-10	都支支出金	0	0	0	0			
小計	11	21	11	-10	その他	947	1,096	208	-888				
小計	21,334	19,451	19,591	140	合計	947	1,096	208	-888				
移転費用	補助金等	60	60	60	0								
	その他	0	0	0	0								
小計	60	60	60	0									
合計 (b)	21,394	19,511	19,651	140									

(単位：%)

区 分	29 年度	30 年度	元 年度
有形固定資産減価償却率	77.2	77.6	79.3
受益者負担割合 (a/b)	4.4	5.6	1.0

5. 人員体制

					(単位：人)			
	29 年度	30 年度 A	元 年度 B	対前年度 B-A				
職員	0.65	0.55	0.55	0.00				
再任用職員	0.00	0.00	0.00	0.00				
嘱託職員	0.00	0.00	0.00	0.00				
計	0.65	0.55	0.55	0.00				

6. 行政コストの主な事項

	経常費用	経常収益・臨時損益
決算額の主な内訳	光熱水費 1,130,954円 修繕料 388,132円 施設管理委託料 3,675,639円 使用料 392,400円	【その他内訳】 ・書籍販売収入 197,050円 ・複写機等利用料 9,040円 ・光熱水費等業者負担分 2,085円
主な増減理由	物件費等の減額は、前年度実施した敷地内樹木剪定業務がなかったため。	令和元年度は退職手当引当金減額分がなかったため

7. 貸借対照表

(単位：千円)

勘定科目		30年度末 A	元年度末 B	対前年度 B-A	勘定科目	30年度末 A	元年度末 B	対前年度 B-A			
資産の部	有形固定資産	事業用資産	77,809	74,072	-3,737	負債の部	地方債	0	0		
		土地	28,340	28,340	0		退職手当引当金	4,673	4,485	-188	
		建物	217,013	217,013	0		その他	0	0	0	
		減価償却累計額	-167,944	-171,681	-3,737		1年内償還予定地方債	0	0	0	
		その他	400	400	0		未払金	0	0	0	
	固定資産	インフラ資産	0	0	0	流動負債	賞与等引当金	407	409	2	
		土地	0	0	0		その他	0	0	0	
		工作物	0	0	0		合計	5,080	4,894	-186	
		減価償却累計額	0	0	0		純資産の部	固定資産等形成分	77,809	74,072	-3,737
		その他	0	0	0			余剰分(不足分)	-5,080	-4,894	186
	物品	2,490	2,490	0	合計	72,729	69,178	-3,551			
	減価償却累計額	-2,490	-2,490	0	負債および純資産の部 合計	77,809	74,072	-3,737			
	無形固定資産	0	0	0							
	投資その他の資産	0	0	0							
流動資産	現金	0	0	0							
	未収金	0	0	0							
	徴収不能引当金	0	0	0							
	その他	0	0	0							
合計	77,809	74,072	-3,737								

8. 貸借対照表の主な事項

勘定科目	事業用資産(土地)	勘定科目	事業用資産(建物)
決算額の主な内訳	郷土博物館敷地 36,371.40平方メートル	決算額の主な内訳	郷土博物館 鉄筋コンクリート造 2階建て 延床面積 786,171平方メートル 郷土博物館別棟収蔵庫 鉄筋コンクリート造 2階建て 延床面積 675,120平方メートル
主な増減理由	なし	主な増減理由	なし

9. 事業の評価【一次評価】

30年度末時点の課題事項	<ul style="list-style-type: none"> 「明治時代」や「板碑」などテーマを変えながら、4回の企画展を開催したが、全体的には、入館者数が昨年度より減少となり、入館者数の増加に結びついていない。 郷土博物館は昭和49年に開館してから45年を経過し、美術館との統合に向けて検討しているが、照明や空調など館内設備の経年劣化が進んでおり、引き続き必要最低限の修繕を行う必要がある。 	対応結果	一部解決	事業目的を達成するための元年度事業目標【Plan】	<ul style="list-style-type: none"> 郷土博物館の入館者数を増加させるため、「観て、楽しんで、学習できる」ように考えたり、話題性のあるテーマを取り入れたりするなど、企画展の内容を工夫する。 子どもたちにも分かりやすく、郷土の歴史や文化財等に興味を持ってもらえるような企画展を開催する。 現在、美術館と郷土博物館の複合化の検討を進めているが、館内設備の経年劣化は年々進んでいるため、必要最低限の修繕を行っていく。 	
事業目標達成に向けた主な活動実績・効果【Do】	<ul style="list-style-type: none"> 企画展「甲冑武具展」や企画展「青梅のいきもの」では、子供たちにわかりやすいうえに多方面から関心が寄せられるテーマを設定し、展示等を行うことで、「観て、楽しんで、学習できる」博物館としての役割を果たすことができた。また、企画展「甲冑武具展」や企画展「青梅の織物」では、日本甲冑武具研究保存会や青梅織物工業協同組合に展示指導や協力をいただくなど、新たな取り組みとして実施することができた。 入館者数については微減しているが、10月の台風第19号の影響により臨時休館日を設けたことも原因の一つと考えられるため、結果としては昨年度とほぼ同等の入館者数と考える。 館内設備の経年劣化が進んでおり、なるべく費用をかけず、必要最低限の修繕を実施した。 					
	視点別事業評価【Check】			事業目標達成度評価【Check】		
【必要性】事業の公共性市民ニーズ	高い(一定の必要性あり)	【効率性】費用対効果	良い(改善の余地あり)	【有効性】事業目的に対する事業実施の効果	高い(改善の余地あり)	相当程度進展あり
元年度末時点の課題事項【Check】	<ul style="list-style-type: none"> 子供の興味を引く内容や話題性の高いテーマを取り入れた企画展を実施するなど、郷土博物館の入館者数を増加させるための方策について、引き続き検討が必要である。 館内設備の経年劣化、特に空調関係の劣化が進んでおり、今後の稼働・運用については他設備よりも優先して修繕等を検討する必要がある。 		今後の方向性【Action】	改善	次年度の取組【Action】	<ul style="list-style-type: none"> 子ども達に関心を持ってもらえるようなテーマを取り上げるなど、企画展の内容を工夫する。 新型コロナウイルス感染症の影響も考慮し、入館者数の増加のみを検討するのではなく、博物館に来館しなくても展示を見ることができしきみを検討する。 館内設備の劣化、特に空調設備の劣化については、展示室と事務室を分けた空調設備の導入効果等について研究し、実施の可能性を検討する。

10. 行財政改革推進本部評価【二次評価】(対象事業のみ)

評価	<p>入館者数については、前年度と比較し若干の減少となったものの、子供たちにわかりやすいテーマでの企画展の実施や、専門家の指導の下で、より観覧者に配慮した展示を行うなど、利用者増に向けた運営面の見直しが見られた。</p> <p>本館は、小学校の授業の一環として訪れる小学生も少なくなく、青梅市の歴史と文化を知る貴重な施設であることから、今後も子供たちが興味を持つ企画展や収蔵品展を実施するとともに、多方面からの集客を図るため、SNSをより一層活用したPRに努め、入館者の増に取り組む必要がある。</p> <p>また、施設・設備については老朽化が進み、維持補修に係る経費も増加しており、収蔵品の収蔵スペースも少なくなっているのが現状である。</p> <p>老朽化した博物館単独での更新は困難であることから、公共施設等総合管理計画に掲げられている美術館との統合に向けた検討を進めつつ、修繕等については必要最低限の執行としていくこととする。</p>
----	---